

KTK

NO. 86

後援会費郵便振替口座
01070-7-32145
あらぐさ後援会

あらぐさ通信

編集 集 あらぐさ後援会
編集協力 社会福祉法人あらぐさ福祉会
〒617-0813 京都府長岡京市井ノ内広海道 42-3
TEL 075-953-9212 FAX 075-953-9215



ワークセンター

2泊3日

長崎への旅



ワークセンターは、6月12日～14日、長崎方面への旅行に出かけました。

2泊3日の旅行は、2009年の東京デイズニーランド以来2回目です。

ハウステンボスで楽しんだあと、貸し切りバスで九十九島展望台などを見学、有田ポーセリンパークでは有田焼の手ひねり体験もしました。

宿舎では、宴会のご馳走とカラオケで盛り上がりました。

費用は、おこずかいも含めて、働いて得た毎月の給料やボーナスを積み立てたお金でまかなうことができました。

また次の旅行に向けて、仕事にも力が入ります。

お給料・ボーナスを

積み立てました。

あひるの仲間とともに歩む

さをりを紡ぎ、布を染めて――

昨年の7月から「ケアホームいろどり」に入居したゆきこさん（40歳）は、毎日元気にあらぐさに通っています。

小さい頃からのゆきこさんの歩みを、お母さんにお聞きしました。

公園のブランコ大好き！

両親で大捜し

小さい時のゆきこさんは、ブランコが好きで、とても多動な子どもでした。少し目を離すと、いなくなってしまう、お父さんとお母さんはよく捜しました。ブランコのある公園をあちこち捜していると、向陽幼稚園の子どもたちと一緒にすべり台をしていたということもありました。

2歳半からポニーの学校、3歳から向日市の第3保育所に入りました。就学は、向

陽小学校に入学し、5年生まで障害児学級で学びました。当時は、学童保育には入れてもらえず、放課後は、ずっとお母さんと一緒だったそうです。

「助けてくれたお母さん」

付きっきりの看病

5年生の時、あと10日ほどで家族旅行に出かけるというとき、ゆきこさんは、自分で蚊取り線香をつけて、背中とおしりに大やけどをしてしまいました。

75日間ほど、辛くて痛い病院生活が続き、お母さんは、付きっきりで看病しました。その間に、ゆきこさんは「助けてくれたのは、この人」という目で、お母さんを見てくれるようになりました。それまでは、コミュニケーションがたいへんだったので、

この出来事はとても嬉しかったそうです。また、病院にお見舞いに来た人が「帰る」というと、「私も・・・」と起き出してきたりするなど、少しずつみんなの中で気持ちが動いていることが分かりました。それから、お母さんの声かけにも、ゆきこさんはよく応えてくれるようになりました。

散歩して体重を減らそう

ソフトクリームはだめ

6年生から、向日が丘養護学校（現支援学校）に通いました。スクールバスから降りると、神崎屋のソフトクリームを食べるのが習慣になってしまい、どんどん体重が増えつつけました。そこで、お母さんは「これはいけない！」と思い、買うことを断固としてやめました。ゆきこさんは、大声を出すなどたいへんでしたが、一歩も譲りませんでした。

向日市の障害児学童保育「がんばクラブ」では、長期の休みには、学生の指導員さんが、毎日散歩



に連れてくれました。リュックは汗の塩で白くなっていました。このような取り組みもあって、ゆきこさんの体重もずいぶん減らすことができました。

迎えてくれた機織り機

あらぐさで充実の日々

ゆきこさんは、卒業して「あらぐさ」に入りました。

学校で織物が好きだったゆきこさんが来るのを、「あらぐさ」は、大きなさを織りの織り機を準備して待っていてくれました。ゆきこさんの後から「あらぐさ」に来た人も、次々にさを織りをするようになりました。

光明寺前から下海印寺、そして久貝へと無認可の時代を経験したゆきこさんですが、そのたびに活動も充実し仲間も増えていきました。

あらぐさでは、さを織りのほかに、染物をするのが好きです。絞りの染めの輪ゴムをはずすときは、期待いっぱい楽しんでます。



お家でもお手伝い

健康を気遣う毎日

お休みの日は、月に1回7時間ほどヘルパーさんとお出かけをします。電車に乗るのが好きで、動物園に行き、そこで小さい子供に出会うのも嬉しいそうです。お店があると、食べ物を買いたくなるので、阪急電車の乗り降りの駅は、お店がない「西向日駅」を利用するなど、こころでも、お母さんは気をつけています。

お家では、お母さんと一緒に台所で仕事を手伝います。食後の食器を洗い場に運んだり、ラップに包んで片づけ、洗濯物干しなど、よく働いてくれるそうです。

ゆきこさんの健康のために、食事のバランスや食事の量を、お母さんは、毎日気遣っておられます。心配していた血圧は、以前より低く安定してきましたが、最近、呼吸のことで、通院する日も増えてきました。ゆきこさんは、昨年の7月からケアホームにのりに入りました。

お母さんは、若いころは編み物が好きだったそうですが、今では疲れるのでしないそうです。そして、痛くなった膝や腰の治療に通院をしています。

「通院の努力をしないと、いろいろで頑張っているゆきこに、叱られるような気がします。」とお母さんはおっしゃいます。

(取材 前田幸子・真殿尊子)



歌のボランティア『チャンプルー』と

生の音楽楽しみたい

月に一度のミニコンサート

デイセンターでは、毎月1回『歌ボラさんコンサート』と呼んでいる時間があります。主に水曜日の午後2時から3時まで、生の歌声と三線の音を楽しんでも心地よい1時間です。

待遠しい「歌ボラさん」

ボーカルと三線のトリオ

『歌ボラさん』とは『歌のボランティアさん』のことで、その名前の通り、ボランティアで歌を届けてくださる方々です。メンバーはボーカルの木村さん、三線の水野さん、やまこしさんの3人です。歌ボラさんという呼び方は我々が利用者さんに今日の予定を伝えるのに「今日は歌ボラさん来はるよー」と言い始めたことから始まり、今ではそれが利用者さんにすっかり定着してきているようです。

小さい規模で

ゆったりとした時間を

歌ボラさんと私たちの出会いは、他の事業所の職員さんに紹介いただいたのがきっかけです。はじめはクリスマスなど、主に全体行事の中でのコンサートとして来ていただいていたのですが、いつしかもう少し小さい規模で、ゆったり生の音楽を楽しみたい利用者さんとの時間を持つために、定期的に来ていただけるようになりました。



コンサート当日は、食後の休憩が終わる頃、別室で練習されている歌ボラさんたちの演奏が聞こえてきます。利用者さんにとっても「もうすぐコンサートが始まるんだ！」と期待が膨らむ時間になっています。待ちきれなくて、「部屋の準備ができたよー」と歌ボラさん呼びに行ってくれる利用者さんもおられます。

みんなで一緒に楽しもう

手拍子に 踊りも飛び出す

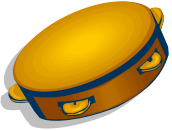
Aグループ居室でコンサートは行われます。このようなコンサートが始まったころは、歌ボラさんと利用者さんたちは向かい合い、演奏する人と聞く人、というようなはっきり分かれた空間の作り方だったので、歌ボラさんから「みんなで一緒に楽しめるように皆さんの中に入って演奏して

もいいですか?」と言っていたとき、今では利用者さんも歌ボラさんたちもリラックスした姿勢で座り、同じ目線の高さで、お互いに目線を合わせながら、一緒に音楽を楽しんでいます。利用者さんは手拍子をしたり、一緒に声を出したり、大好きな曲が始まると思わず立ち上がり、踊りだす方もおられます。



童謡からポップスまで 好きな曲もリクエスト

曲目はその季節に合わせて事前に考えてきてくださったものや、利用者さんたちがリクエストしたお気に入りの曲など、童謡から懐メロ、ポップスまでジャンルは様々です。ボーカルの木村さんが三線の水野さん、やまこしさんの演奏に合わせてとてもきれいな歌声を聴かせて下さいます。時折タンバリンのリズム伴奏が加わったり、3人で歌を披露して下さることもあります。毎回趣向を凝らして「みんなで楽しめるものを!」と考えて下さっていることが伝わってくる1時間です。今では参加される利用者さんの顔、名前、曲の好みなどどんどん覚えてくださって、「次の曲は〇〇さんの好きな曲だよ」「〇〇さん一緒に歌ってねー」など音楽以外でのコミュニケーションもとてもあたたかいものになっています。



末永くよろしく!

『チャンプルー』さん



私たちは、「歌ボラさん」と呼んでいますが、実は『チャンプルー』という素敵なバンド名で演奏活動をされていることを知りました。これだけ利用者さんと一体となって楽しいひと時を作っていたいただいているのに、私たちが「歌ボラさん」と呼ぶのは何だかいつまでもヨソヨソしい気がしたのです。

これからは、『チャンプルー』さんと呼んで、利用者さんのなかで定着し、どんどん利用者さんの中に溶け込んでいただけるように、末永く月に一度の時間を築いていけたら・・・と思います。今後ともよろしくお願ひします。

(文・浜野亜希子)

ケアホーム
いろどり1年

一人ひとりの 生活大切に

「もえぎ」の食堂から美味しそうな匂いが漂っています。

今日は、5名の男性の『やきそば カラオケパーティー』です。日中の活動から帰宅した人たちが、準備を始めました。

Aさんが、支援員の草野さんと一緒にキャベツを手でちぎるの始めると、テレビで相撲をみていたHさんも誘われて、「ボクも・・・」とばかりに加わります。Yさんは、包丁で丁寧キャベツを細かく切りました。

世話人の林さんが準備した豚肉が用意され、ホットプレートの上で野菜とソースが混ぜ合わされてアツアツの焼きそばの出来上がりです。お風呂からあがってきたOさんと、この日ショートステイ利用のFさんも加わりにぎやかに焼きそばパーティーが始まりました。間もなくして、「おそくな

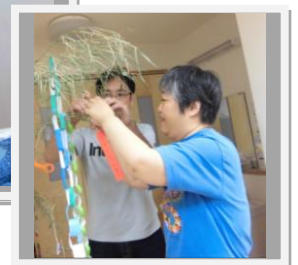
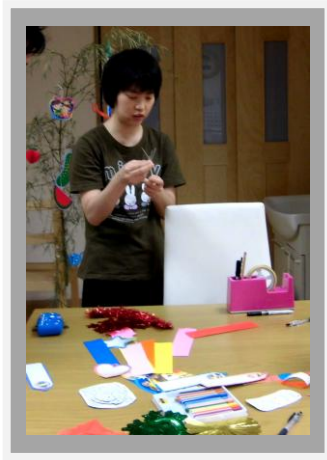
って、ごめん」——仕事を終えて急いで帰宅したTさんも加わりました。ホットプレート山盛り2杯の焼きそばは、あっという間に完食でした。

「ケアホームいろどり」が開所して1年がたちました。当初、月曜日から金曜日の開所でしたが、本年度からは日曜の夕方から土曜日の朝までとなり、入居者一人ひとりにあつた利用計画が組まれています。ヘルパー、世話人や生活支援員など大勢の職員が入居者の皆さんにかかわって生活を支えています。

「一人ひとりのペースを大切にするとともに、はりのある暮らしを送るためにも、節分や七夕、誕生日のお祝いなども大事にしています。」と、統括事業長の佐名木さんは話してくれました。(文・安田 隆)



七夕——願い事や絵を書いて笹に飾りました。



「ケアホームいろどり」には、「わかくさ」「たちばな」「もえぎ」「ききょう」の4つの棟があります。各棟にショートステイ(短期入所)用の居室が1〜2室あり、昨年10月から利用が始まりました。(定員の各)

あらぐさと私

障害福祉センターあらぐさ職員
丸山 彰子 さん



私はあらぐさと出会った前、働いていた児童館で障害のある一人の子とも出会いました。普段強気なことを言っているその子が「先生もってかえる」と横にいた私の手を持ち、ランドセルの中へその手を入れたことがありました。そばにいたい存在にな

っていたのかなあととても印象に残っています。そのような児童館での出会いがきっかけとなり、そんなすてきな個性のある人たちと一緒に過ごしたいと思ひ、あらぐさで働き始めました。

あらぐさに最初に見学に来た時に、どのグループも利用者さんひとりひとりが生き生きと生きているのを感じました。そして、職員さんのひとりひとりによりそったあたたかいかわりにとても魅かれたのを覚えています。

毎日の生活の中で、車が好きな利用者さんが、歩き活動の途中で道路を走るトラックやバスなどを見つけて振り返りながらにこにこしている姿や、わかってくれないかな…とでもいうようにじっと見つめる姿、職員顔をのぞき込みながらダメと言われるようなことをしてみたり、とさまさまな姿がみられます。そのたびに、自分自

身もうれしかったり、あたふたしたりしながらも、きっとたくさんの思いが込められているのだらうなと思うと、ひとつひとつの姿がとても大事なものに感じられます。

そんな日々、うれしいこと、楽しいこと、悲しいこと、つらいことなどありのままの気持ちに触れながら、一緒に感じたり、考えたりしながら共に過ごす中で、そっと手助けしていきけるようなかわりをしていきたいと思ひます。利用者さんによりそった支援ができていのかと悩むことも多いですが、今できることをその時その時で精一杯やっています。

そして、利用者さんが、のびのびと心地よく過ごせるように、あたたかい雰囲気や大事にしながら、どんとかまえて見守っていただける、そんな人になりたいと思ひます。



今年のテーマは『フェルトのおかしやさん』です。

きせきてきひつじ 奇蹟的羊

2013年11月6日(水)～13日(水) 10:00～17:00(最終日は15:00まで)
☆ワークショップ 10:45～11:30 14:15～15:00(土・日は行いません)

会場 **アトリエ畔**^{はん}(長岡京市粟生川久保2-5) 光明寺総門前(入口)より北50m

貸借対照表

平成25年3月31日現在

資産の部			負債の部		
流動資産		149,617,507	流動負債		6,298,916
	現金預金	90,470,692		未払金	2,333,431
	原材料	967,306		預り金	21,615
	未収金	58,179,509		仮受金	3,943,870
	立替金				
	仮払金		固定負債		219,879,518
固定資産		755,498,051		設備資金借入金	211,973,000
	基本財産	685,955,842		退職給与引当金	7,906,518
	その他の固定資産	69,542,209		負債の部 合計	226,178,434
			純資産の部		
			基本金		120,266,119
			国庫補助金等特別積立金		294,309,814
			その他の積立金		44,478,714
			次期繰越金収支差額		219,882,477
			純資産の部合計		678,937,124
資産の部 合計		905,115,558	負債及び純資産の部 合計		905,115,558

資金収支計算書

(自)平成23年4月1日 (至)平成24年3月31日

勘定科目		金額
就労支援事業活動による収支	就労支援事業収入計	9,371,643
	就労支援事業支出計	9,371,643
	就労支援事業資金収支差額	0
福祉事業活動による収支	福祉事業収入計	366,841,821
	福祉事業支出計	318,821,383
	福祉事業活動資金収支差額	48,020,438
施設整備等による収支	施設整備等収入計	3,232,985
	施設整備等支出計	9,075,250
	施設整備等資金収支差額	-5,842,265
財務活動による収支	財務収入計	10,835,000
	財務支出計	21,602,193
	財務活動資金収支差額	-10,767,193
当期資金収支差額合計		31,410,980

前期末支払資金残高	110,940,305
当期末支払資金残高	142,351,285

事業活動収支計算書

(自)平成23年4月1日 (至)平成24年3月31日

勘定科目		金額
就労支援事業活動による収支	就労支援事業活動収入計	9,371,643
	就労支援事業活動支出計	9,373,176
	就労支援事業活動収支差額	-1,533
福祉事業活動による収支	福祉事業活動収入計	339,739,112
	福祉事業活動支出計	296,903,403
	福祉事業活動収支差額	42,835,709
事業活動外収支	事業活動外収入計	40,125,253
	事業活動外支出計	41,261,390
	事業活動外収支差額	-1,136,137
経常収支差額		41,698,039
特別収支	特別収入計	61,843,563
	特別支出計	178,710,352
	特別収支差額	-116,866,789
当期活動収支差額合計		-75,168,750
繰越活動収支差額	前期繰越活動収支差額	295,851,227
	当期末繰越活動収支差額	220,682,477
	その他の積立金取崩額	7,000,000
	その他の積立金積立額	7,800,000
	次期繰越活動収支差額	219,882,477

ことしも 開催

『みんなおいでよ！ あらぐさひろば』

10月
27日

今年の

『あらぐさひろば』

昨年、「やさしい街づくりを応援
みんな楽しく交流しましょう」と
声かけした『みんなおいでよ！あら
ぐさひろば』は、今年もあらぐさ後
援会主催で開催します。

今年の

『あらぐさひろば』

◎オープニングで高らかな響き

雨降る中、ホルンなどの金管楽器
五重奏演奏で高らかに鳴り響いた
『ひろば』のオープニングでした。

◎地域の人も来て欲しい

地域の方と交流をしていきたい
と、あらぐさの利用者さんが一軒ず
つ案内チラシを配布していきまし
た。できなかつた地区は新聞折り込
みで呼びかけました。当日は、チラ
シを片手に地域の方が来てくれまし
た。

◎参加型中身づくり

地域団体の方々が参加してくれ
ました。力作の版画作品や利用者さ
んの一瞬の表情をとらえた大型写
真の展示。団体会員が持ち寄った物
品によるバザー。遊びコーナーやお
にぎりの模擬店。『ひろば』の中身
の一翼を担ってくれました。

他にもあらぐさ職員、障害者関係
の団体が模擬店・喫茶コーナーや物
品販売などを担当。楽しく取り組ま
れました。

◎歓声と笑顔の「福引き」

『ひろば』の締めくくりは、乙訓
の名産やあらぐさの製品が景品と
なった「福引き」です。雨は上がり、
くじ引き箱からカードが取り出さ
れ、名前が読み上げられると大きな
歓声と拍手に包まれ、会場は笑顔い
っぱいでした。

今年も地域交流のイベントとし
て、参加型のとりくみを大事にし
て準備しています。

月日 十月二十七日(日)
時間 十一時～二時
会場 障害福祉センターあらぐさ

◎ワイワイと楽しく

昨年同様、遊んだり、食べたり、
見たり、聞いたり、買い物したり
しながら交流を深めていきます。
もちろんフィナーレは豪華景品の
「福引き」
大会です。

さあ、

みんなお
いでよ！
みんな
ワイワイ
と楽しく
交流しま
しょう。



昨年の会場風景

1992年6月5日 第3種郵便物承認(毎月1回25日発行) 2013年10月11日発行
KTK増刊通巻第4041号 発行所 京都障害者団体定期刊行物協会
〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル中之町519 京都社会福祉会館4階
京都難病連内 発行人 高谷修 頒価50円(購読料は会費に含まれています)

KTK
あらぐさ通信
No.86